

## 『おせっかい大作戦』

小城市立砥川小学校 6年 <sup>きしかわ</sup>岸川 もも

去年の夏休み、習い事に送ってもらうとき道ばたにおじいさんがあおむけにたおれていました。真夏の熱いアスファルトの上に肌着一枚でつえをむねにだいたおじいさんがうなだれていました。すでに通りかかった、一人の女性がおじいさんに近よって声をかけられていました。わたしのお母さんは、すぐに車を停めて「どうされましたか」とたずねると先に停まっていた女性がおじいさんにむかって「おじさん、だいじょうぶね、どこか痛いところはあるね」など色々声をかけられていましたが、おじいさんは起き上がろうともしませんでした。お母さんは近くの交番に行くと女性に伝え、交番に行きました。

その後おじいさんは、無事に帰られたそうです。わたしはこの時、習い事の時間に間に合わないとそればかり考えていました。またある時は家の前のタクシー会社がなくなっていて、それを知らないおばあさんがうちのまどをトントンたたいて「タクシーを呼んでください」と声をかけられました。行き先を聞いたお母さんは暑い中、重い荷物を持ったおばあさんに「おばちゃん、送っていくよ」とすぐにかぎを持って車に乗りこんでいました。それを見てわたしは今はじめて会った知らない人なのによく乗せていけるなと感じました。帰ってきたお母さんにどこまで送っていったかたずねると、学校の近くの老人ホームだったそうです。そしておばあさんと

の会話を楽しそうに話してくれました。

後日、そのおばあさんからの手紙がポストに入っていました。お手紙といっしょに絵の具でかいた絵が4まい入っていました。

こんなことがうちの家ではよくおこります。その席に親切なのか、おせっかいなのかわたしは分かりませんでした。でもおばあさんからのお礼の手紙や絵を見ながらウルウルしているお母さんを見てわたしは思いました。おっせかいは勇気を出してどんどんやるべき事だと感じました。まだまだわたしにはお母さんのように自分から知らない人に声をかけることは難しいけれど困っている人を見かけたら、知らないふりをせずどんどんかわっていきこうと思います。

親切とおせっかいは紙一重かもしれないけど、それをおそれずに人と関わっていくことが社会を明るくするきっかけになるのではないかと思います。

わたしは自分について考えてみました。

わたしの強みははずかしがらずに人とコミュニケーションをとれることだと気づきその気づきをもっともっと、社会にどういうふうに生かしていけるのか、学んでいきたいと思っています。